

シンポジウムプログラム

日時 平成20年1月30日(水)13:00~17:40(受付開始12:30~)
場所 東京ステーションコンファレンス 5階会議室(503A~D)

- 13:00 開会
- 13:00~13:05 開会の辞 奥村 直樹(総合科学技術会議議員)
- 基調講演**
- 13:05~14:00 「情報爆発が生む新しいITの潮流」
喜連川 優(東京大学生産技術研究所教授)
- 総合科学技術会議科学技術連携施策群 情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群の活動紹介**
- 14:00~14:40 情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群の活動報告
西尾 章治郎(科学技術連携施策群情報の巨大集積化と利活用コーディネータ・主監)
- 情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群の活動 ~情報爆発時代における日本の役割と連携強化~シンポジウム**
- 14:40~15:25 各省施策の報告
菱沼 宏之(総務省総合通信基盤局電気通信事業部電気通信技術システム課企画官)
八尋 俊英(経済産業省商務情報政策局情報処理振興課長)
勝野 頼彦(文部科学省省研究振興局情報課長)

- 15:25~15:40 平成19年度科学技術振興調整費採択課題の研究報告
「センサ情報の社会利用のためのコンテンツ化」
美濃 導彦(京都大学学術情報メディアセンター教授、平成19年度科学技術振興調整費「科学技術連携施策群の効果的・効率的な推進(情報の巨大集積化と利活用)研究代表者)
- 15:40~15:50 休憩
- 15:50~17:30 パネルディスカッション
モデレーター
安田 浩(東京電機大学未来科学部情報メディア学科教授)
パネリスト
長尾 真(国立国会図書館館長)
喜連川 優(東京大学生産技術研究所教授)
土井 美和子((株)東芝研究開発センター技監)
美濃 導彦(京都大学学術情報メディアセンター教授)
八尋 俊英(経済産業省商務情報政策局情報処理振興課長)
- 17:30~17:40 開会の辞 大江田 憲治(内閣府大臣官房審議官:科学技術政策担当)

本シンポジウムは、総合科学技術会議のイニシアティブの下、平成19年度科学技術振興調整費によって実施されています。

本件に関する問い合わせ先
TEL: 03-3581-9452
〒100-0011 東京都千代田区霞が関3-1-1 中央合同庁舎第4号館7階
内閣府総合科学技術会議事務局 参事官(情報通信担当) 付 海老名 毅
TEL: 03-3581-9452
参加申込の
詳細については右記に
お問い合わせ下さい。
e-mail: sympo-infor-01@renkei.jst.go.jp
TEL: 03-3595-6201 FAX: 03-3595-6210
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル23階
情報政策課 主任調査員 林 敏三郎
情報政策課 主任調査員 林 敏三郎
情報政策課 主任調査員 林 敏三郎
独立行政法人科学技術振興機構 科学技術連携施策群支援業務室
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発担当 主監補佐 谷本 茂明
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発担当 主監補佐 谷本 茂明

運営体制

科学技術連携施策群 情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発 主監補佐
谷本 茂明(科学技術連携施策群 情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発 主監補佐)
科学技術連携施策群 支援業務室
大久保 明(内閣府政策統括官(科学技術政策担当) 付参事官(情報通信担当))
大江田 憲治(内閣府大臣官房審議官(科学技術政策担当))
総合科学技術会議事務局
知識処理グループコーディネーター
木俣 豊(独立行政法人情報通信研究機構知識創生コミュニケーション研究センター)
尾尾 隆(大阪大学産業科学研究科 教授)
横山 治夫(東京工業大学学術国際情報センター 教授)
松山 隆司(京都大学大学院情報科学研究科 教授)
東倉 洋一(国立情報学研究所 教授(副所長・研究総主幹務))
喜連川 優(東京大学生産技術研究所 教授)
安田 浩(東京電機大学未来科学部情報メディア学科 教授)
タスクフォース委員
コーディネーター・主監 西尾 章治郎(大阪大学 理事 副学長)
総合科学技術会議議員 奥村 直樹
以下、以下の体制で運営されています。
19年3月30日)において決定されました。独立行政法人科学技術振興機構の支援
「情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発」のテーマは総合科学技術会議(平成
科学技術連携施策群は総合科学技術会議(平成16年7月23日)において創設され、



総合科学技術会議 科学技術連携施策群 情報利活用連携群

総合科学技術会議 科学技術連携施策群
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群の活動
~情報爆発時代に果たす日本の役割と連携強化~
シンポジウム

シンポジウム開催概要

趣旨

総合科学技術会議科学技術連携施策群「情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携群」の平成19年度施策の事業活動および成果について、研究者ならびに一般の方々に広く知っていただくとともに、情報爆発時代に果たす日本の役割と連携強化の方向性に関して議論するためにシンポジウムを開催します。本シンポジウムにより、今後の研究を進めるにあたり関連関係者の協力体制の強化および新しい取り組みを誘発する機会等の拡大に寄与することを目的といたします。

主催 内閣府
共催 総務省、文部科学省、経済産業省
協賛 (社)電子情報通信学会、(社)情報処理学会、
(予定) (社)電気学会、(社)映像情報メディア学会
日時 平成20年1月30日(水)
13:00-17:40(受付開始12:30)
場所 東京ステーションコンファレンス 5階会議室
(サビアタワー)
<http://www.tstc.jp/>

参加者 予定人数 約300名 参加は、原則として事前に申し込みを受けた方のうち、**先着順**にて当方から「登録を受けた」旨のメールを返信した方とします。

参加費 無料

参加申し込み方法 聴講(無料・先着順)を希望される場合は、下記のウェブサイトにてお申し込み下さい。

<http://www.renkei.jst.go.jp/sympo/information/index.html>

本件に関する 問い合わせ先

内閣府総合科学技術会議事務局 参事官(情報通信担当)付 海老名 毅
〒100-0011 東京都千代田区霞が関3-1-1 中央合同庁舎第4号館7階 TEL: 03-3581-9452

参加申込の詳細については下記にお問い合わせ下さい。

独立行政法人科学技術振興機構 科学技術連携施策群支援業務室
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発担当 主監補佐 谷本 茂明
情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発担当 主任調査員 林 敬三郎
〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-2 富国生命ビル23階
TEL: 03-3595-6201 FAX: 03-3595-6210
e-mail: sympo-infor-01@renkei.jst.go.jp

総合科学技術会議 科学技術連携施策群 情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発

科学技術連携施策群とは

総合科学技術会議では、各府省の縦割り施策に横串を通す観点から、国家的・社会的に重要であって関係府省の連携のもとに推進すべきテーマを定め、関連施策等の不必要な重複を排除し連携を強化するために、積極的に科学技術連携施策群を推進してきました。連携施策群のテーマは、平成17年度より「ポストゲノム(平成19年度から「生命科学の基礎・基盤」に再編後継続)」、「新興・再興感染症」、「ユビキタスネットワーク」、「次世代ロボット」、「バイオマス利活用」、「水素利用/燃料電池」、「ナノバイオテクノロジー」、「地域科学技術クラスター」の8つが実施されています。平成19年度より連携施策群のテーマについては、その対象を戦略重点科学技術に

拡大していく方針が定められ、「臨床研究・臨床への橋渡し研究」、「食料・生物生産研究」、「情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発」、「総合的リスク評価による化学物質の安全管理・活用のための研究開発」、「ナノテクノロジーの研究開発推進と社会受容に関する基盤開発」、「テロ対策のための研究開発」の6つが加わり、合計14のテーマについて科学技術連携施策群を推進していくこととなります。そのうちの一つである情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発では、「世界と感動を共有するコンテンツ創造及び情報を高度に利活用できる環境の実現」に向けた研究開発及び人材育成に向け活動しています。

情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発連携施策群の活動概要

平成19年度から以下の活動を実施しています。

目標

「世界と感動を共有するコンテンツ創造及び情報を高度に利活用できる環境の実現」に向けた研究開発及び人材育成。
上記目標の実現のために、以下の施策を推進します。

独自の情報サービスを提供するためにあらゆる情報(コンテンツ)を簡便、的確、かつ安心して収集、解析、管理する次世代の知的な情報利活用のための基盤技術開発

主な施策

爆発的に増加しているインターネット情報を集積・利活用できる知的情報アクセス基盤構築に向け、今年度より総合科学技術会議(内閣府)のイニシアティブの下、経済産業省、総務省、文部科学省は、「情報の巨大集積化と利活用基盤技術開発」に関わる以下の連携施策群を推進しています。

経済産業省:「情報大航海プロジェクト」

総務省:「電気通信サービスにおける情報信憑性検証技術等に関する研究開発」

文部科学省:「革新的実行原理に基づく超高性能データベース基盤ソフトウェアの開発」

これまでの活動

- 1: 各省の連携を密にし、最大限のシナジー効果を生み出すことを目的に、定期的なタスクフォースを開催し、課題把握、共通技術化等の検討を進めています。具体的には、情報大航海プロジェクト(経産省)をベースに、情報信憑性検証技術(総務省)、超高性能データベース基盤(文科省)を有機的に連携し、将来的に成果の受け渡しを行い、新たな利活用を生み出すべく各施策間の連携を推進しています。
- 2: さらに、今後の情報基盤技術拡大の観点から補完的課題「センサ情報の社会利用のためのコンテンツ化」について、各プロジェクトと連携して推進しています。

今後の課題

- 1: Web上及び非Web上にある大量かつ多様な情報を、個人が簡便、的確、かつ安心して収集、分析できる次世代の知的情報アクセス基盤の構築を推進します。
- 2: 情報利活用する際の諸問題に対する調査、検討を行い、法制度面等も加味し、成果の効率的な活用が可能となるよう、活動を推進します。